様式８

# 学 位 論 文 要 旨

研究題目

The role of pain catastrophizing in pain perception among patients with rheumatoid arthritis without clinical signs of inflammation

（活動性炎症のない関節リウマチ患者の疼痛における破局的思考の役割）

糖尿病内分泌・免疫内科学（指導教授又は研究科紹介教授　松井聖）

氏　名　安部武生

**【背景】**

慢性の関節リウマチ（RA）患者の中には炎症の証拠がないにも関わらず関節痛を訴える**非炎症性疼痛**がしばしば問題となる。

腰痛などの慢性筋骨格系疼痛には心理社会的因子が関与することが知られており、中でも痛みに対する認知的側面である**破局的思考**（pain catastrophizing）が重要な役割を果たすとされ注目されている。破局的思考とは、疼痛エピソードに対する過剰認識と誇張された否定的な認知であり、不安や鬱といった精神医学的問題と連動しながら、過剰なコーピングを介して不動化、廃用性筋萎縮を引き起こし、身体機能は低下する。我々は活動性炎症のない RA 患者の**疼痛**に関わる因子として破局的思考に注目した。

【目的】

活動性炎症のない RA 患者における疼痛に対する破局的思考の関連を解析する。

【対象と方法】神戸市立医療センター西市民病院で通院加療された RA 患者のうち治療開始 6 か月以上経過し、３か月以上主要な治療内容の変更がなく、炎症反応正常（CRP＜0.5mg/dl）例に関節エコー検査を実施して画像的寛解が確認された 81 名を対象とした。疼痛の評価に VAS、破局的思考の評価に Pain Catastrophizing Scale (PCS)、精神医学的因子の評価に Brief Scale for Psychiatric Problems in Orthopaedic Patients: BS-POP、身体機能評価に Health Assessment Questionnaire : HAQ を用いた。これらの因子と VAS を目的変数とした多変量解析を行った。

【結果】総 PCS は VAS、BS-POP、HAQ の全てで関連因子として抽出され、特に VAS については関連する唯一の因子として抽出された（($\beta$=0.34, p=0.0073)）。

【考察】破局的思考は身体機能障害や精神医学的因子と強く関連しながら、疼痛に対する唯一の関連因子であった。既存報告では低身体機能や精神医学的因子は疼痛に対する影響因子とされるが、活動性炎症がないＲＡ患者を対象とした本研究においては、これらの因子は疼痛に対して関連因子として抽出されなかった。破局的思考は身体機能障害や精神医学的因子に影響を与えつつ、非炎症性疼痛に対するキードライバーであることが示唆された。

【結論】活動性炎症のない RA の非炎症性疼痛において破局的思考は身体機能や心理的因子よりも重要な関連因子の可能性がある。